

佐野短期大学シラバス2013

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
英語教育法 English Teaching Method		1年	後期	木曜日・4時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義	選択（教職課程必修（中学校教諭2種(英語)））		
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
特になし。				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし。				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
櫻井裕子	非常勤講師室	木曜日12:30から16:00まで（授業時間を除く）	授業中に指示します	
授業の概要				
英語の教職を目指す際に必要な教授法に関する専門知識を学び、心構えについて考えていく。日本人が英語教師として、自らの母語ではない上に、言語の性格上非常に遠い言語である英語を教える、ということの困難、と同時に、日本人教師だからこそできるという積極的な存在意義を考えていく。そして、日本人が目指すべき英語とはどういうものかを考えていく。				
授業の到達目標				
主に、中学校英語教員になるための専門知識、技能を習得できるようにする。 学生の必要、希望に応じ、小学校英語、こども英語について学ぶことも可能であって、そのための知識、技能を習得できるようにする。 日本において英語教師としてあるべき態度を、世界中で使われている「様々な英語」という観点から考える事ができるようにする。				
授業の方法				
テキストの学習項目全般を概観的に学んだあと、日本人英語教師として避けて通れない項目、履修者一人一人の関心のある項目に絞り込んで、資料を集め、発表し合う。それを基に、授業終盤にかけて模擬授業を行う。				
学習の成果				
これまでは、英語を教わる、という、学習者としての経験しかなかった学生が、人に英語を教える、という教師の視点を持つことができる。 いわば逆の立場に立った時初めて持つことのできる考え方を知ることができる。 教師の視点を持つからこそ、学習者としてやるべきことも、改めて見えることができる。 その循環に身を置くことができる。英語教師となる将来に備え、学習者としての自分と教師としての自分という複数の視点を持つスタートにすることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス。英語を学ぶ事、教える事。			
第2回目	英語の指導目標。日本の英語教育の環境的要因・学習者の要因。			
第3回目	人間にとつての母語・第1言語の役割。 第2言語・外国語学習の不安。 学習の動機づけ。			
第4回目	英語スキルの指導。（リスニング・スピーキング）			
第5回目	英語スキルの指導。（リーディング・ライティング）スキル統合。			
第6回目	様々な議論のある点：発音指導。			

第7回目	様々な議論のある点：文法指導	
第8回目	様々な議論のある点：文字綴り字指導	
第9回目	様々な議論のある点：語彙指導	
第10回目	教材と機器の利用。	
第11回目	ネイティブスピーカーの利用。	
第12回目	授業案作成。	
第13回目	模擬授業と評価会。	
第14回目	模擬授業と評価会。	
第15回目	レポート作成と解説。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	50%	学習項目をよく理解することができる。
レポート	20%	授業案10％：目的意識を持った指導案が書ける。 授業最終回レポート10％：課題の要件を十分満たしている。
調査報告書		
小テスト		
中間・学期末試験		
発表内容（態度含む）	30%	目的意識を持って模擬授業が行え、評価会では他学生の発表をよく理解し評価できる。
その他		
教科書と参考図書		
教科書：「新編英語科教育法入門」（研究社出版）		
履修上の心得・ルール		
目的意識をもって真剣に授業に臨むこと。学生の理解度により学習スケジュール等の変更があり得る。		